

## 株式会社高島屋 2021年2月期第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

2020年12月25日（金）に開示した、2021年2月期第3四半期決算説明会における質疑応答の要旨です。

### ■経営課題

Q：来年4月には中期計画の開示を予定している。コスト削減はかなり順調に進んでいる印象だが、この先の感染状況が不透明な中で、経営としてどのようなことに力点を置いて議論をしているのか。

A：国内百貨店については2021年度に何とか黒字化にもっていけるよう、営業費の削減や要員の効率化等の検討を進めているところだ。3カ年計画の初年度である21年度はこれらの施策をやり切り、さらに次の年度へとつなげていく考えだ。

### ■国内百貨店

Q：来期以降の国内百貨店の黒字化に向けたポイントになると思うが、通期計画に対するコスト構造改革の進捗状況について聞かせてほしい。

A：国内百貨店については2021年度にできれば黒字化にもっていけるよう、営業費の削減や要員の効率化等の検討を進めているところだ。3カ年計画の初年度である21年度はこれらの施策をやり切り、さらに次の年度へとつなげていく考えだ。

Q：年末年始の足元の状況をどうとらえているのか。おせち料理がよく売れているなど、新しい需要も含めて、明るい話題について聞かせてほしいまた新型コロナウイルスの感染対策はどのように行っているのか。

A：日本全国で第3波が来ており、足元の売上や入店の状況は良いとは言えない。加えて年始は密を回避する施策により、引き続き売上は厳しいと見ている。お歳暮についてはオンラインで店頭をカバーしながら前年並みで推移した。おせち料理やクリスマスは順調である。年明けの福袋は年内予約とするなど、密を回避する取り組みを行っている。また消毒やお客様同士の間隔をあけるよう呼びかけるなど従来の取り組みを引き続き実施していく。初商についても、万一、多くのお客様がご来店されたとしても万全の態勢で臨めるよう準備している。

### ■東神開発

Q：東神開発の第3四半期の状況と今後の見通しについて聞かせてほしい。

A：第3四半期については、営業を再開しており家賃収入も戻ってきているので、マイナス幅が縮小するなど改善してきている。しかし第4四半期については、客数減による収入減やテナント空室の長期化等、懸念されることもあり、第3四半期と比較して状況は悪化するのではないかと見ている。

### ■ネットビジネス

Q：ネットビジネスの実績や取り組みについて聞かせてほしい。

A：3～11月の9カ月間でネットビジネスの売上は前年比プラス約60%であり、第3四半期の3カ月間でもその傾向は継続している。福袋やクリスマスケーキ、おせちなど好調である。クリスマスの惣菜を強化したほか、品揃え全体の掲載数も前年から10%程度増やしている。

以上